

038 ゼカリヤ書 要約付き

この書は捕囚の民がバビロンからエルサレムに帰って来たあとの話 です
エズラ記によると ゼカリヤとハガイは共に民に対して
神殿の再建に取り組み 神の約束の成就を待望するよう
励ましました それよりずっと前に預言者エレ
ミヤは イスラエルの捕囚は 70 年続くが
その後 新しい神殿に再び神が臨在し
やがて神の王国とメシアの支配 がすべての国に及ぶと言いました
ゼカリヤ書の冒頭にある日付を見る と
その 70 年が間もなく終わろうとして いました
しかし帰還した民の生活は苦しく それらの約束はどれ一つ実現しそ
うには思えませんでした ゼカリヤ書はその理由を記しています
この書の構成は明快でまず導入 部があり
次にゼカリヤの見た幻を綴った 大きなセクションがあり
7 章と 8 章でそれが締めくくられて います
続いてもう二つ詩と預言の大きな セクションがあります
では詳しく見ていきましょう 導入でゼカリヤは預言者たちを
無視して神に逆らい 捕囚にされた先祖たちのようで
あってはならず 神に立ち返るべきだと同世代の
者たちに語っています 帰還した民はそれに答え悔い改
めて神の前にへりくだりました あるいはそうしたように見えました
次の大きなセクションは ゼカリヤが夢に見た 8 つの幻を集
めたものです 多くの夢がそうであるように
これらは奇妙なイメージにあふ れています
神が象徴的な夢を通して人に何か を伝えることは昔からあり
たとえば創世記のヤコブやヨセフ やファラオなどがその例です
それらの夢は その時に起こっている出来事の意味
を明かしたと同時に 未来を垣間見せるものでもありました
ゼカリヤが見た夢はシンメトリー の構造になっています
最初の幻と最後の幻は馬に乗った 4 人の男たちで
神のために世界をパトロールして 回っています
これは 神がご自身の世界を注意深く見
守っていることを表しています 彼らは世界は平和だったと報告
しました これはゼカリヤの時代に神がペルシャ

を興し バビロンを征服させて平和をも
たらした事を指しています ここで疑問が浮かび上がります
イスラエルが捕囚にされる 70 年間 は終わろうとしている
今こそメシアの王国がエルサレム に建てられるのだろうか
神は約束を必ず成就すると答え ますが
それがいつなのかについては答え ませんでした
2 番目と 7 番目の幻も対になって いて
二つともイスラエルを捕囚へと 導いた過去の罪について語って
います 2 番めの幻はイスラエルを 攻撃し
民を散り散りにしたアッシリア と
バビロンを象徴する角を描いて います
そのあとこの角つまり 2 つの帝国 を散らす職人たちが登場します
これはペルシャを表しています 7 つめの幻ではかごに入った女性
が登場します 彼女はイスラエルが何世紀にも
わたって 契約に違反し続けたことの象徴
です この女性はコウノトリの翼を持
った別の女性たちによって バビロンに運ばれました何とも
奇妙な幻です 3 番目と 6 番目の幻も対になって
いて 2 つとも新しいエルサレムの建設
についてです 男性が街を測っていてこれはエルサレム
が再建され 諸国への光となり
すべての国が神の民と共に礼拝 するという約束を象徴しています
6 番めの幻では新しいエルサレム の周りを飛ぶ巻物が
泥棒や嘘つきを罰しています これは新しいエルサレムは神のみ
ことばによって きよめられることを示しています
4 番目と 5 番目の幻はこのセクション の中心にあり
帰還民の中の鍵となる 2 人の指導 者たち大祭司ヨシュアと
ダビデの子孫ゼルバベルについて です
ヨシュアはイスラエルの罪を象徴 する
汚れた服を着ていますが それははぎとられ新しい服と新しい
ターバンが与えられます これは神の恵みと赦しを表すもの
です そして御使いがもしヨシュアが
神に誠実であり続けるなら 彼は民を導き
未来のメシアなる王を象徴する 者になるだろうと告げます
もう一方の幻では神の民に注が れる神の視線を象徴する
金の燭台に油を注ぐ 2 本のオリーブの木 があります

2本の木は神の油注がれた指導者で
神殿再建に尽力していたヨシュアとゼルバベルのことです
神は神殿再建は政治的な駆け引きだけでは
うまくいかないと言います この2人の指導者は神の霊により
頼まなければならないのです 幻を集めたセクションは
真ん中に位置する4番目と5番め の幻のテーマを取り上げる
もう一つの幻をもって終わります 大祭司ヨシュアが再び現れ冠を
与えられ 未来のメシアなる王また神の国の
大祭司の象徴として示されるのです
そしてゼカリヤは今の世代が神に誠実で契約を守るのなら
これらの幻はすべて実現するとい ってこのセクションを終わります
この3つの幻はメシアの王国の到来は
この世代の神への誠実さにかか っている事を強調しています
次にこれら幻の結論で ゼカリヤからもう一つのメッセージ
が語られます イスラエル人の一団がやってきて
以前の神殿の崩壊を70年近く嘆 いていました
彼らはゼカリヤに嘆きの時は終わり 神の王国はもうすぐ来るのでしょうか
と尋ねました ゼカリヤは彼らに
神が預言者を通して呼びかけた 言葉を
先祖たちが拒絶して捕囚にされる 羽目になったことを思い出させ
今の世代の者たちが正義と平和 を追い求め
神との契約に忠実であるなら メシアの王国を見るだろうと言
います つまりゼカリヤは彼らに問い返
したのです あなたたちは来るべき神の王国
を受け入れ それに加わる人になる準備はでき
ているのかと しかしこの問いには答えが返ってこない
まま 話は先に進んでいきます
最後のセクションは 1章から8章までとはまったく別の
スタイルになっています 来るべきメシアの王国に関する
詩やイメージの断片が 万華鏡をのぞいたように散りば
められています 9章から11章では謙虚なメシアなる
王が すべての国々の上に神の王国を
築くために ロバに乗って新しいエルサレム
に入る様子が描かれています しかし突然その王が今度はイスラエル
を導く羊飼いにたとえられ 拒絶されますまずご自分の民によって
次に これもまた羊飼いにたとえられている

彼らの指導者たちによってです。そこで神はイスラエルをこの墮落した羊飼いたちに引き渡しました。ここで疑問が浮かび上がります。イスラエルは永遠に自分たちの王を拒むつもりなののでしょうか。最後のセクションである12章から14章は、そうではないと言っています。ここには来るべきメシアなる王について、別の詩とイメージが並べられています。それらは新しいエルサレムを、神の正義がついに国々の悪を打ち滅ぼす場所として描いています。このテーマはヨエルやエゼキエルが語ったテーマと非常に似通っています。しかし神はご自分の民の心の中の反逆にも立ち向かい、彼らにご自分の霊を注ぎ、彼らがメシアなる羊飼いを拒んだことを悔いて嘆くことができるようにして下さるのです。最後の章は、すべての国が新しいエルサレムに集まってくる記述で締めくくられています。そこは新しいエデンの園でもあり、その神殿から命の水の川が流れ出て、すべての被造物が癒されるというところでこの書は終わっています。ここで読者は1章から8章と9章から14章の関連性について考えさせられます。ポイントは後半で語られている、来るべきメシアの王国は前半で語られているように神の民が契約に忠実である場合にのみ到来するという点なのです。ゼカリヤ書には読者を振り回すような難解さがあります。幻と詩の中には度肝を抜かれるようなイメージがたくさん出てきます。し直線的な思考の流れもありません。実はこれもこの書の重要な点で、歴史の流れや人の人生と同じように、いつも分かりやすいパターンがあるとはかぎりません。しかし預言者たちはご自分の目的に沿って歴史を導く神のみわざの片鱗を垣間見せてくれます。混沌とした現実を超えて、来るべき神の王国への希望に目を向けさせてくれるこの書は、私たちに今を誠実に生きようと招いているのです。これがゼカリヤ書です。

要約

『ゼカリヤ書』は、捕囚の民がバビロンからエルサレムに帰還した後の出来事を描いた書です。『エズラ記』によると、ゼカリヤとハガイは神殿の再建を進め、神の約束の成就を励ましました。ゼカリヤは、エレミヤの預言により、捕囚は70年続き、その後新しい神殿に神が臨在し、神の王国とメシアの支配が広まると述べました。

ゼカリヤ書の冒頭には、70年が終わりに近づいた時期の日付があります。しかし、帰還民の生活は困難で、約束の実現は遠く思われました。この書はその理由を説明し、構成は導入、ゼカリヤの幻、続いての詩と預言の大きなセクション、そして結論に分かれています。

ゼカリヤは導入で、先祖たちの過ちを繰り返さず神に立ち返るよう呼びかけます。帰還民は悔い改め、神の前にへりくだりました。ゼカリヤの幻のセクションでは、8つの幻が描かれ、それぞれ象徴的な意味を持ち、神の約束と民の忠実さが結びついています。このセクションは、メシアの王国の到来は忠実な世代にかかっていることを示唆しています。

結論部では、捕囚から帰還した一団がゼカリヤに尋ねる場面があります。彼らは神の王国の到来と嘆きの終わりを問います。ゼカリヤは、過去の世代が神の呼びかけを拒絶し罰せられたことを思い出させ、今の世代が忠実であればメシアの王国を見るだろうと語ります。

後半のセクションでは、詩やイメージが現れ、来るべきメシアの王国と新しいエルサレムが描かれます。最終章では、新しいエルサレムに集まる全国の記述で締めくくられ、希望と神の約束が強調されます。

ゼカリヤ書は、難解なイメージやテーマを通じて、神の王国と希望への視点を提供します。この書は、歴史の流れと同じように明確なパターンがなく、混沌とした現実を超えて未来への希望を呼び起こすことを目的としています。